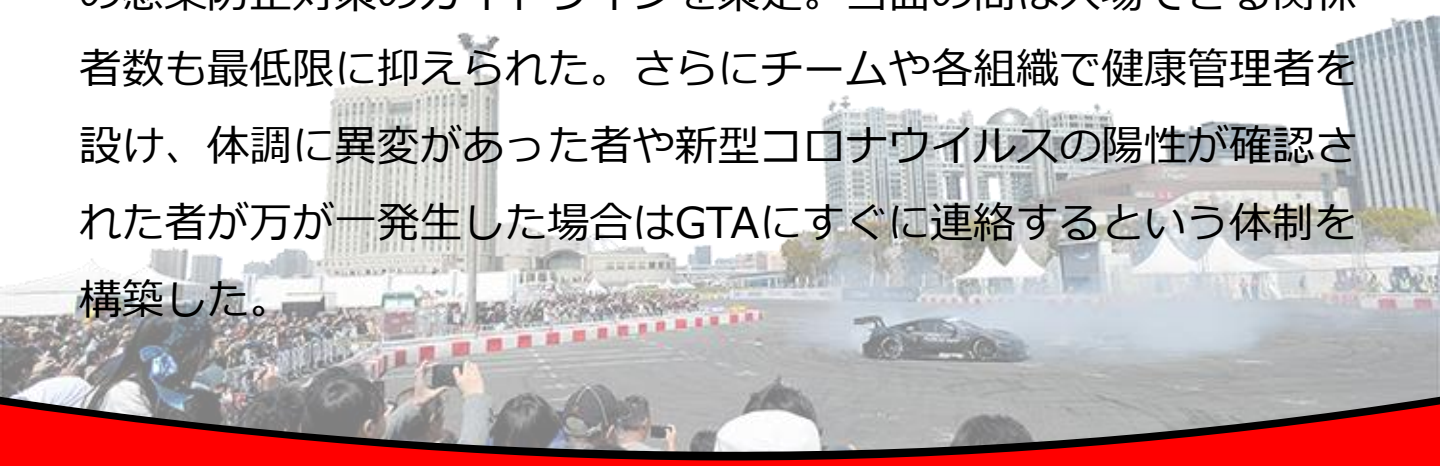
【モータースポーツコラム】

筆者：吉田 知弘

新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で開幕が延期されていた国内主要モータースポーツだが、ようやく7月を皮切りにレース開催の方向で動き出した。スーパーGTは関係者の感染リスク低減を踏まえ開催サーキットを大幅に変更。さらに前半4戦は無観客でレースを行なうこととなった。スーパーフォーミュラは8月末にツインリンクもてぎで開幕し12月に最終戦まで約4ヶ月でこなすという日程に変更。スーパー耐久は9月5日～6日の富士24時間から開幕し、最終戦は2021年1月の鈴鹿サーキットという変則的なスケジュールとなった。その中で7月19日のスーパーGT開幕戦（富士）が“コロナ禍”で再開した最初のビックレースということになったが、やはり「感染拡大をいかに防ぐか？」という部分に各関係者は神経を尖らせていた。

同シリーズを運営するGTアソシエイションは2020シーズンのレースを安全かつ円滑に開催するためのロードマップおよび関係者の感染防止対策のガイドラインを策定。当面の間は入場できる関係者数も最低限に抑えられた。さらにチームや各組織で健康管理者を設け、体調に異変があった者や新型コロナウイルスの陽性が確認された者が万が一発生した場合はGTAにすぐに連絡するという体制を構築した。



また入場が許可された全関係者は大会14日前から毎日健康チェックシート（オンライン）のGTAへの提出が義務付けられた。そこで少しでも異変があれば、詳細確認がすぐに行なわれ、特に発熱症状が確認された場合などはガイドラインに沿って該当者に対し入場を禁止する措置もとられた。もちろんサーキット入場ゲート前での検温も実施され、そこで発熱症状がある者はGTAの山口孝治メディカルデリゲートがその場で診察を行ない、ここでも場合によっては入場を禁止されることもあった。これ以外にもピットやパドックのみならず、パルクフェルメや表彰式でもドライバーたちはマスクを着用し、記者会見では、座席位置を工夫してソーシャルディスタンスを確保。さらにアクリル板も設置するなど、他のスポーツ競技以上に徹底した対策を講じていたという様子だった。

　こうして1700人以上の関係者全員に対し、見逃しがないように二重三重のチェック体制を施し、徹底した対応をとっていたGTA。他のスポーツ競技は全員に対してPCR検査を義務付けるなど「検査主体」の感染防止対策を講じているが、GTA山口メディカルデリゲートによると新型コロナウイルスの検査がどれも100%の再現性があるものではなく、現段階においては確固たるエビデンス（証拠）にはならないとのこと。検査ばかりに頼るのではなく、各組織の健康管理者と常に連絡をとり、毎日提出される健康チェックシートを駆使し、全員の体調を日頃から注意深く観察し、そこで少しでも異変があればリアルタイムで対応している。

「感染対策においては、“きちんと防御に努めること”が一番重要だと思っています。だからこそ、二重にも三重にも網を張って、だからこそ『ひとつ目、ふたつ目がクリアできても、みっつ目で引っかかったらダメだよ』というふうに徹底した対応をとっています」と山口メディカルデリゲート。実際に健康チェックシートも確認とデータ化をするのに半日はかかるという膨大な作業なのだが、彼をはじめGTAは1日たりとも怠ることなくチェックに努めている。それは“絶対にモータースポーツ界で感染拡大を起こさないようにする”という強い意志が垣間見えた。

これからスーパーフォーミュラやスーパー耐久でも数ヶ月遅れの開幕に向けた動きが本格化していくが、こちらも感染防止対策をどうするべきなのかという議論と準備が行なわれている。日本でも7月下旬になって感染者数が急激に増えていることもあり、まだまだ警戒を怠ることができない新型コロナウイルス。モータースポーツ界でも「感染対策」に神経を研ぎ澄まさなければいけない日々が、まだまだ続いていきそうだ。

そして、今回のことで改めて感じたことは、モータースポーツは多くの人の努力によって作り上げられているということ。特にスーパーGTやスーパーフォーミュラなど最高峰カテゴリーは華やかな印象があるが、その裏では大会を無事に成功させるために、こうした地道な努力が積み重ねられている。これがあるからこそ、モータースポーツが成り立っているのだ。そうやって裏方として働くすべての人に敬意を表したい。

（プロフィール）
吉田 知弘（よした ともひろ）／石川県出身 1984年生まれ
幼少の頃から父親の影響でF1をはじめ国内外のモータースポーツに興味を持ち始め、その魅力を多くの人に伝えるべく、モータースポーツジャーナリストになることを決断。大学卒業後から執筆活動をスタートし、2011年からレース現場での取材を開始。現在ではスーパーGT、スーパーフォーミュラ、スーパー耐久、全日本F3選手権など国内レースを中心に年間20戦以上を現地取材。現在は「motorsport.com」の日本語版サイドなど、webメディアを中心にニュース記事やインタビュー記事、コラム等を掲載している。